港北区の「活動」をつなぐ情報誌

楽遊学（らくゆうがく）

【編集・発行】港北区区民活動支援センター

第316号
2025（令和7）年4月
隔月発行

特集 食支援で人と人・活動をつなぐ「セカンドリーグ神奈川（ビーバーリンク）」

（セカンドリーグ神奈川の皆さん）

P.2　特集 「セカンドリーグ神奈川（ビーバーリンク）」
P.3　連載「シリーズ わがまち港北」第239回　林 宏美 著
P.4　区民活動支援センターからのお知らせ

特集 食支援で人と人・活動をつなぐ「セカンドリーグ神奈川のビーバーリンク」を紹介します

「ビーバーリンク」は、特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川のフードバンク事業の名称です。区内では［大倉山ミエル］のフードパントリー、［菊名の居場所あったか］のフードパントリー、［日吉本町ひっぽ食堂］等を通じて、地域の困窮者支援を行っています。相対的貧困率※15パーセントと言われる昨今、食の貧困は、調理するという体験の貧困や、共に食卓を囲むという社会関係の貧困も引き寄せてしまいます。重要な社会課題に取り組むセカンドリーグ神奈川のビーバーリンクをご紹介します。

※相対的貧困率：等価可処分所得が一定水準を下回る者の割合

食支援でつなぐ、人と人・団体と団体・活動と活動

セカンドリーグ神奈川とは

セカンドリーグ神奈川は、地域の課題に取り組む人々や団体の支援を目的に、2012年に生活協同組合パルシステム神奈川によって設立されました。当法人の「協働連携創造事業」の一つとして、フードバンク事業『ビーバーリンク』があります。

無料で食材の寄贈を受けられるのは、NPOだからこそ。食材を提供できる側（企業や行政、様々な団体）と、提供を受ける側（活動団体等）の間に入り、両者をつなぎます。また生活協同組合（生協）が母体となっていることで、パルシステムグループからの安心安全な食品（青果）の提供を受けることや、配送センターの敷地及び冷凍庫を使用することができ、通常は難しい冷凍品の受け渡しも行っています。

新横浜近くの配送センター

生協の青果

市販や業務用の冷凍品

ビーバーリンクの開催

ビーバーリンクは、生協のトラックが配達に出ている間の配送センター（県内13か所）を会場に毎月1～2回開催されています。各団体への数量を確保する為、1会場あたりの団体数は概ね5～6団体としています。団体には定刻に集合してもらうことで、顔を合わせて情報交換や交流ができる、定期的なつながりの場にもなっています。

開催の様子

情報交換の様子

ビーバーリンクでは生協からの提供食材の他にも、他のフードバンクと連携した食品の確保や、全国の企業からの寄贈があるなど、ネットワークを構築しています。冷凍品については、以前に港北区内に工場のあったラーメンチェーン店からの提供を、工場の県外移転後も受けられたり、検品や外装不良で出荷できない商品を冷凍倉庫（東扇島他）へ引き取りに行く等、少しでも多くの食材の確保に努めています。

おしえて♪ビーバーリンク

らく：楽遊学、ビーバー：ビーバーリンク

らく： どうして「ビーバーリンク」なんですか？

ビーバー： ビーバーの住む森は適度に木が間引かれて日がよく当たり、水辺の生き物も多く住む、豊かな森になります。また人や活動がつながる（リンク）意味もあります。

らく： 1回のビーバーリンクでは、どんなものがどのくらい配られるんですか？

ビーバー： 毎回、青果や冷凍品等の全体量を把握し、団体の規模に応じて振り分け表を作っています。例えば今回のキャベツなら、各団体に2個～5個の配分になりました。
冷凍のから揚げは6箱あったので、ちょうど一箱ずついき渡りましたね。
それから今日は、スーパーからいただいたグラノーラがありました。
賞味期限も近かったので、それでも使えるという団体さんに分けました。

らく： 今日は全部で、青果が10種類、冷凍品5品、それにグラノーラでしたね！

ビーバー： 食支援だけでなく、フードロス削減にもつながっているんですよ。

寄贈など

団体への問合せ

TEL 045-470-5564

団体ホームページ

学徒勤労動員の寮となった東京園 ―終戦秘話その26―

前回、東京園の創業者中村忠右衛門が晩年に照翁の名で記した『夢痕録』から、割烹旅館だった戦前の東京園の歴史について紹介しました。今回はその続きです。

昭和18年（1943年）10月、網島の温泉旅館は組合の自発的申合せにより一斉廃業し、勤労者の宿舎として提供することになりました。『夢痕録』にも、旅館東京園を寮として提供したことが書かれています。これについて同書に詳細は書かれていませんが、東京園は昭和20年（1945年）2月から、学徒勤労動員で岩手県からやってきた水沢高等女学校（現、岩手県立水沢高等学校）の女学生たちの寮となりました。このことは、学徒勤労動員について調査されている北海道大学名誉教授の逸見勝亮先生から、研究所へ問い合わせがあったことからわかりました。

水沢高女の女学生たちは、東京園とその隣の里乃家に分宿し、川崎市木月（現、川崎市中原区木月住吉町）にあった東京航空計器の工場へと通っていました。この勤労動員については『こころに生きる六十日―水沢高女東航学徒動員の記―』（水沢高等女学校第20・21回卒業生、昭和61年）という記録集が刊行されていますので、ここから当時のことを辿ってみましょう。

彼女たちは昭和20年2月25日の午前1時に鉄道で水沢を出発しました。遅延や空襲もあり、網島へ到着したのは夜11時、その日は二・二六事件以来という9年ぶりの大雪でした。網島駅から東京園があった旧イトーヨーカドー網島店付近までは徒歩10分程度ですが、一行は初めて訪れる土地の暗い雪道の中を迷いに迷い、「東京園」の看板を見つけて何とか寮に辿りついたそうです。

東京園はとても大きな旅館で、お風呂も大きく立派なものだったと書かれています。しかし、当初週二回という話だった入浴は帰郷までの二ヵ月間でたったの二回、一回目は東京園のお風呂でしたが、薪がなく湯も少ないうえに時間も限られていました。二回目は町の銭湯でしたが、人が多いうえに湯も少ないので、立ったまま膝までしか入浴できませんでした。

勤務日の食事は三食とも工場で、休日の食事は寮で手持ち米を炊き、味噌汁と配給の缶詰がおかずでした。空襲等で出勤出来ない日は会社からバケツで運ばれたおにぎりが配給され、寮での食事提供はありませんでした。

ただ、休日の寮生活は穏やかで、時には近くの鶴見川堤防に集まって合唱やおしゃべりをしたり、買い物に出かけたりと、女学生らしい時間もあったようです。「寮の近くの土手から眺めた色鮮やかな桃の花と、天高く、くっきりと浮いた富士山の美しさは40年経た今も瞼に心に残って忘れない」といった回想もあります。

しかし、生活は穏やかなばかりではなく、寝る前は非常食の入った救急袋、靴、防空頭巾を枕元に置き、服を着たまま警報の出ないことを願って眠りに就く日々でした。

願い空しく空襲があると、東照寺の裏手にあった防空壕に避難しました。比較的近距離ではありましたが、空襲が続くようになると、一晩に何度も起こされるので、大変な苦行になったといいます。

網島の防空壕は町の住民全てを収容出来るもので、固い粘土層をくりぬき、大きく堅固そうなものだったそうです。記録集には、戦後40年を経て東照寺のご住職に聞いた話として、この壕は陸軍が掘ったと記されています。

防空壕については『夢痕録』にも記述があります。同書によれば、網島の防空壕は民間で掘ったものと、軍が掘ったものの2種類があったようです。そして前者は昭和19年に中村氏が「敗色濃厚だという観点」で必要性を訴え、官庁側の反対を説き伏せ、費用も自ら集めて掘らせたもので、網島町民は警報と同時にこの壕へ避難したので負傷者は出なかった、と述べています。

一方、軍の壕はその翌年に掘られたもので、当時の兵隊たちは銃も靴もなく、食料も充分でないために、農家から食べ物をもらうことと防空壕を掘ることが日課となっていたそうです。中村氏が壕の必要性を主張した時には「非国民」と罵られたものの、1年後には慌てて防空壕を掘り始めたので、その様子を苦笑しながら眺めたと記しています。

彼女たちの働く東京航空計器の工場は、昭和20年4月15日の川崎大空襲で全焼しました。寮から工場へは東横線で通っていましたが、空襲の翌日は不通だったため、徒歩やタクシーで出勤し、工場の焼け跡の片づけの手伝いに行ったそうです。工場へ向かう途中、「日吉は穴だらけ」だったという回想もあります。

その後も毎日、工場の焼け跡の整理が続きました。仕事はないが空襲はある、身の危険を感じる日々の中で、学生たちは帰郷を考えるようになります。引率教官も学校・会社・監督官庁に帰郷を掛け合いましたが許可は得られず、最終的には自身の責任で帰郷を断行、4月26日夜6時半頃に寮を出発し、翌27日には岩手へ帰り着きました。

余談ですが、筆者の義理の祖母は岩手の出身でした。当時は摺沢家政女学校（現、岩手県立大東高等学校）の学生で、水沢高女の女学生とともに同じ東京航空計器に勤務していたようです。川崎大空襲では摺沢家政の寮も全焼しており、直接の伝聞ではありませんが、祖母も激しい空襲の中を必死に生き抜いて帰郷しました。

戦後の東京園まで話が及びませんでしたが、筆者としては東京園と水沢高女のつながりを調べる中で、偶然にも祖母の戦争体験を知ることとなり、不思議な縁を感じています。今年の8月で終戦から80年。戦争は決して過去の出来事ではなく、私たちの今とも深く結びついているのだと改めて感じました。

記：林 宏美（公益財団法人大倉精神文化研究所図書館運営部長 兼 研究員）

区民活動支援センターからのお知らせ

区民活動支援センターでは、ウェブによる情報発信を進めています。

©港北区ミズキー

ペーパーレス化に向けた取組が進む中で、区民活動支援センターでも、これまで紙媒体で発行してきた港北区「まちの先生」や「グループ・団体ガイド」を、冊子版からデジタル版へと移行してきました。また、昨年からはセンターで配架しているチラシなどの情報もウェブで配信しています。
いつでも、どこでもお好きな時に、イベント情報や活動情報をご覧いただけるよう、これからもインターネットを介してさまざまな情報を発信していきます。

港北区「まちの先生」

ともに学びあうボランティア活動

港北区「まちの先生」一覧をご覧いただけます。講座や指導、披露・実演の依頼をお考えの方はご活用ください。

遊学スポット

港北区内・周辺のイベント情報

区内で活動するグループ・団体から提供されたイベントや講座ウォーキングなどの情報をご覧いただけます。（毎月更新）

QRコードを読み込むだけで、ウェブサイトに簡単にアクセスできます

港北区グループ・団体情報

何かをはじめたい、趣味を見つけたい
仲間を作りたい方必見！

主に港北区内の区民利用施設で活動しているグループ・団体を紹介しています。

情報コーナー

生涯学習、市民活動
講座・イベント等のチラシ

センターで配架・掲示しているチラシをいつでもどこでもご覧いただけます。

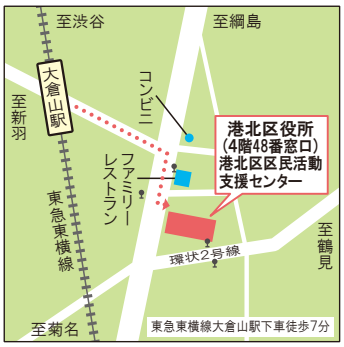
ご意見ご感想をお寄せください

港北区区民活動支援センター（港北区役所4階48番窓口）

〒222-0032　港北区大豆戸町26-1
TEL&FAX　540-2246
Eメール　ko-center@city.yokohama.lg.jp

港北区区民活動支援センター
検　索

★開館時間★　月～金曜 8時45分～17時（土・日曜、祝日、年末年始除く）



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN
2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷